

2023年11月16日(木) 16:00 情報公開

ミューザ川崎シンフォニーホール開館 20 周年記念公演

R.シュトラウス「ばらの騎士」演奏会形式

ジョナサン・ノット×東京交響楽団 R.シュトラウス コンサート・オペラ第 3 弾(最終回)



写真(左から):ジョナサン・ノット(指揮)© K.Miura/ミア・パーション(元帥夫人)© Reka Choy/カトリオーナ・モリゾン(オクタヴィアン)© Jeremy Knowles/エルザ・ブノワ(ゾフィー)© James Bellorini

ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市幸区大宮町 1310)は 2024 年に開館 20 周年を迎えます。これを記念して、「川崎市フランチャイズオーケストラ」の東京交響楽団(指揮:ジョナサン・ノット、同団音楽監督)の演奏による、**R.シュトラウスの歌劇「ばらの騎士」(演奏会形式)**を 2024 年 12 月 15 日(日)に上演することを発表いたします。

本公演は、2022 年から三年間にわたり開催しているノット指揮・東京交響楽団の R.シュトラウスのコンサート・オペラ・シリーズの第 3 弾でもあり、その最終回をシュトラウスの傑作で華やかに締めくくります。

主要歌手陣は、世界の歌劇場からオファーの絶えないカリスマ歌手でいま最も知的なシュトラウス歌いとして確固たる地位を築く**ミア・パーション(元帥夫人)**をはじめ、2015 年にザルツブルク音楽祭・聖霊降臨祭音楽祭にて W デビューし世界的な躍進を続ける**カトリオーナ・モリゾン(オクタヴィアン)**、ベルベットのようなしなやかな歌声が絶賛される新進気鋭の**エルザ・ブノワ(ゾフィー)**という注目の若手が登場するほか、オックスを当たり役とし世界の歌劇場でも絶賛される**アルベルト・ペーゼンドルファー(オックス男爵)**や、品格あふれる歌唱と演技力で引く手数多の**マルクス・アイヒエ(ファーニナル)**のベテラン勢が並びます。演出監修は、前作「エレクトラ」「サロメ」の抑制の効いた演出でも絶賛を博したイギリスの名歌手**サー・トーマス・アレン**が引き続き務めます。ぜひ本公演にご期待いただき、告知にご協力を賜れますと幸いです。

記

公演名	ミューザ川崎シンフォニーホール 開館 20 周年記念公演 ジョナサン・ノット指揮 東京交響楽団 R.シュトラウス: 歌劇「ばらの騎士」(演奏会形式/全 3 幕/ドイツ語上演/日本語字幕付)
日時・会場	2024 年 12 月 15 日(日) 14:00 開演/会場:ミューザ川崎シンフォニーホール *2024 年 12 月 13 日(金)にもサントリーホールにて東京交響楽団主催の同内容公演がございます。
曲目・出演者	R.シュトラウス: 歌劇「ばらの騎士」(演奏会形式/全 3 幕/ドイツ語上演/日本語字幕付き) * 途中休憩 2 回 指揮: ジョナサン・ノット(東京交響楽団 音楽監督) 演出監修: サー・トーマス・アレン 元帥夫人: ミア・パーション ゾフィー: エルザ・ブノワ オクタヴィアン: カトリオーナ・モリゾン オックス男爵: アルベルト・ペーゼンドルファー ファーニナル: マルクス・アイヒエ ほか調整中 管弦楽: 東京交響楽団
チケット情報	[料金] S¥19,000 A¥16,000 B¥13,000 C¥9,000 U25(小学生~25歳以下):各席半額 [発売] 2024 年 5~6 月頃予定 [問合] ミューザ川崎シンフォニーホール Tel. 044-520-0200(10:00~18:00) https://www.kawasaki-sym-hall.jp/

以上

◇本リリースに関するお問合せ

ミューザ川崎シンフォニーホール 事業企画課 佐藤容子

Tel. 044-520-0100(10:00~18:00) sato@kawasaki-sym-hall.jp

◆R.シュトラウス:歌劇「ばらの騎士」主な出演者プロフィール



© K.Miura

指揮:ジョナサン・ノット(東京交響楽団 音楽監督) Jonathan Nott, Conductor / Music Director of TSO

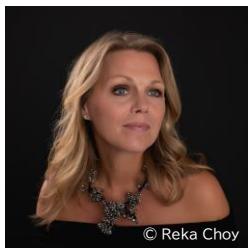
イギリス生まれ。フランクフルトとヴィースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン響首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、EIC 音楽監督、バンベルク響首席指揮者を経て、2017 年よりスイス・ロマン管音楽監督も務めている。抜群のプログラミングセンスと古典から現代曲まで幅広いレパートリーで、世界の主要オーケストラ・音楽祭に客演。2010 年バンベルク響との CD が、世界で権威ある仏 Midem 音楽賞最優秀交響曲・管弦楽作品部門賞受賞。2009 年バイエルン文化賞受賞。2016 年バンベルク大聖堂にて大司教より功勳章を授与。東響とともに 2020 年「ミュージック・ペンクラブ音楽賞(オペラ・オーケストラ部門)」、2022 年音楽の友誌「コンサート・ベストテン」国内オーケストラ最高位、毎日新聞クラシックナビ「音楽評論家・記者が選ぶコンサート・ベストテン」第 1 位に選出。レコーディング活動でも多彩な才能を発揮し、ウィーン・フィルやベルリン・フィルとの録音のほか、東響とはオクタヴィアレコードより多くの CD をリリースしている。



© Sussie Ahlburg

演出監修:サー・トーマス・アレン Sir Thomas Allen, Direction

イギリス出身。世界の主要な劇場・音楽祭及びオーケストラに出演し、バリトン歌手としての確固とした地位を築いた世界的名歌手。英国ロイヤルオペラでは 50 以上の役柄を歌っており、2022 年には同オペラでのデビュー 50 周年を迎えた。2003 年からはオペラ演出も手掛けている。2016 年ノット指揮モーツァルト歌劇『コジ・ファン・トゥッテ』(演奏会形式)へ演出監修とドン・アルフォンソ役、2019 年ノット指揮シェーンベルク「グレの歌」の語りではその圧倒的な存在感と歌声で魅了した。当 R. シュトラウス・コンサートオペラシリーズでは第 1 弾『サロメ』、第 2 弾『エレクトラ』でも演出監修を務め、極限まで抑えた絶妙な演出が絶賛されている。



© Reka Choy

元帥夫人:ミア・パーション(ソプラノ) Miah Persson (Soprano), Marshallin

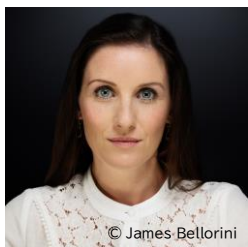
スウェーデン出身。世界中の歌劇場やオーケストラから出演オファーが絶えないカリスマ歌手。新国立劇場、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、スカラ座、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭等、世界の主要な歌劇場・音楽祭に出演。1998 年に「フィガロの結婚」のスザンナ役でオペラ・デビューして以来、モーツァルト作品の主要な役柄を数多く歌い世界的に高く評価されている。近年は、R. シュトラウス作品に取り組んでおり、円熟期にある今、最も知的な R. シュトラウス歌手として確固たる地位を築いている。2018 年ノット指揮モーツァルト歌劇『フィガロの結婚』伯爵夫人役で出演しており、その気品溢れる佇まいと抜群の歌唱が絶賛された。



© Jeremy Knowles

オクタヴィアン:カトリオーナ・モリソン(メゾソプラノ) Catriona Morison (Mezzo soprano), Octavian

スコットランド出身。あたたかく豊かな声で今、ヨーロッパの耳の肥えた聴衆を魅了する注目の歌手。すでにザルツブルク音楽祭、エジンバラ国際音楽祭、ハンブルク国立歌劇場等の世界の歌劇場に出演している。レパートリーは幅広く、近年のオペラ作品のレパートリーとしては R.シュトラウス『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、ワーグナー『ラインの黄金』フリッカ、モンテベルディ『ポッペアの戴冠』ネローネ等がある。2024 年にはネゼ＝セガン指揮ロッテルダム・フィルで『ワルキューレ』(演奏会形式)に出演する。



© James Bellorini

ゾフィー:エルザ・ブノワ(ソプラノ) Elsa Benoit (Soprano), Sophie

フランス出身。ベルベットのようなしなやかな歌声が絶賛される注目の歌手。バイエルン国立歌劇場のオペラ・スタジオで研修後、同歌劇場のアンサンブルメンバーとして数多くの作品に出演。プッチーニ『ラ・ボエーム』ムゼッタ、モーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、ビゼー『カルメン』ミカエラ等で、パリ・ガルニエ宮、グラインドボーン音楽祭、ベルリン・ローミッシュ・オーパー等に出演。オーケストラ公演でもネルソンス指揮ゲヴァントハウス管をはじめ、ベルリンフィル、ミュンヘンフィル等と共演を重ねている。



オックス男爵:アルベルト・ペーゼンドルファー(バス) Albert Pesendorfer (Bass), Ochs

オーストリア出身。説得力のある歌声と高い演技力を誇る実力派。アントン・ブルックナー私立大学、ウィーン国立音楽大学で学ぶ。ワーグナー『神々の黄昏』ハーゲンや『トリスタンとイゾルデ』マルケ王等、ワーグナー作品を中心に 60 以上の役をレパートリーとする。なかでも『薔薇の騎士』オックス男爵は当たり役として世界の歌劇場で歌っており、絶賛されている。新国立劇場、ウィーン国立歌劇場、バイロイト音楽祭、ドレスデン州立歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場等で活躍するほかチェコフィル、BBC フィル等オーケストラとの共演も数多い。



© Fumiaki-Fujimoto

ファーニナル:マルクス・アイヒェ(バリトン) Markus Eiche (Bariton), Faninal

ドイツ出身。エレガンスを備えた芳醇な歌唱に加え、確かな演技力が高く評価されている。シュトゥットガルトで学び、マンハイム歌劇場でキャリアをスタートした。ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、チューリッヒ歌劇場、フィンランド歌劇等、世界の歌劇場からオファーが絶えない歌手の一人である。ワーグナー『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、チャイコフスキー『エフゲニ・オネーギン』題名役等数多くのレパートリーを誇る。『ばらの騎士』ファーニナル役も十八番としており、メトロポリタン歌劇場では同役でデビューし絶賛された。